奈良県技師会総合管理部門アンケート報告（１）

～医療施設における検査室の現状調査～

○枡尾　茂 (奈良県立三室病院) 三谷　典映 (奈良県立医科大学附属病院)
森分　和也, 猪木　正允 (奈良県立奈良病院), 嶋田　昌司 (天理よろづ相談所病院)

【はじめに】最近の医療情勢はますます厳しさを増し、臨床検査を取り巻く環境も大きく変化しつつある。それに伴い検査室は従来になく様々な面での改革を求められ、検査室運営は一段と難しい局面を迎えている。この時代に各施設の検査室がどのような状況でこの難局を乗り越えようとしているのか、検査室の現状調査アンケートを行った。

【方法と結果】　2003年 5月に奈良県内の技師会会員の所属する 54の検査室（医療機関のみ）の代表者に調査票を配布し回答を求めた。アンケートは 54施設中 28施設から回答があり、回収率は 51.9%だった。病床数 200床以下 17施設、200床以上が 11施設であり、うち救急指定病院は 12施設で 44%、検査技師数は 2人から 110人まで施設規模によって幅広く、約 20床に 1人の割合になった。検査室は、ほとんどの施設で院内実施＋外部委託という形態をとっており、委託率は 1%から 95%と施設により大きな差がみられた。また“経営サイドからブランチ・EMS化の話はあるか”の問いに 17施設で“ない”との回答だったが、 11施設では将来的には可能性があると答えた。日当直業務は 18施設で実施され勤務時間内迅速対応はほとんどの施設で実施されていた。生体検査項目の業務拡大の必要性に関する問いでは、“非常に強く感じる”・“やや感じる”が 75%で、“あまり感じない”の 25%を大きく上回った。精度管理についての問いでは、外部精度管理の参加は 96%で何らかのサーベイに参加しており、奈臨技のサーベイのみの参加施設も 6施設（ 22%）あった。チーム医療への参画は 38%にとどまり、参画を検討中の施設が 8%あった。臨床や事務など他の部署からの検査室への要望を尋ねた問いでは、コスト削減・収益向上・迅速性・質の高い検査・チーム医療への参画などを上げる施設が多かった。

【まとめ】施設の規模、特殊性によってそれぞれのおかれている立場は違うが、最近の厳しい医療情勢を反映して、経営サイドからはコスト削減・収益向上が、臨床サイドからは検査の質の向上・迅速性・チーム医療が要望されていた。この難局を乗り越えようとする各検査室の運営努力が伺われた。

連絡先　0745－ 32－ 0505 内線　2256